

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 病害虫発生予察注意報第 6 号

作物名：普通期水稲  
病害虫名：トビイロウンカ

### 1) 注意報の内容

発生地域：県内全域

予想発生量：平年よりやや多く前年よりやや少ない

### 2) 注意報発令の根拠

- (1) 9月16日～17日に実施した普通期水稲の巡回調査（48圃場）では、トビイロウンカの発生圃場率54.2%、寄生株率6.1%（平年19.2%、前年35.9%）であり、平年よりやや少なく前年より少ない。しかし、成虫及び老齢幼虫が多数寄生している圃場が一部で見られる（図1）。
- (2) 県内の各地の圃場で、本虫による坪枯れ、株の黄化が散見される（写真1、2）。
- (3) 福岡管区气象台が9月18日に発表した向こう1か月の気象予報では気温がやや高いと予想されており、トビイロウンカにとってやや多発生の気象条件となっている。
- (4) 本年の主発生（7月14日飛来虫）の第三世代幼虫（坪枯れ形成世代）が出現する9月下旬以降、発生が増加すると思われる（図2）。

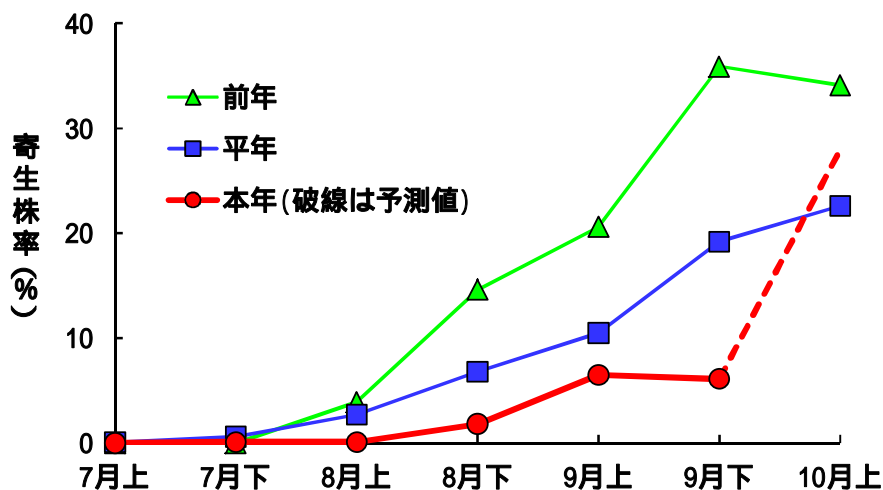


図1 普通期水稲におけるトビイロウンカの発生

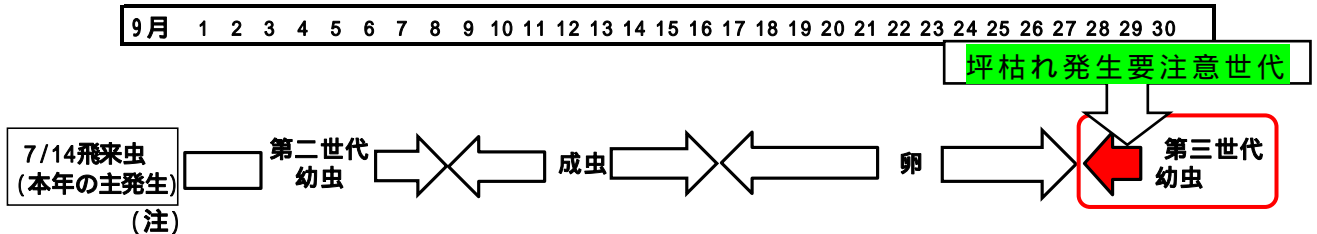
### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカの発生状況は圃場間や同一圃場でも偏りがあり、圃場の外からの観察だけでは発生状況を確認できない。このため、これまでの防除実績にかかわらず、必ず各圃場毎に払い落とし法によって発生状況の調査を徹底し、防除の要否を判断する。

- (2) 多発生圃場においては早急に防除を行う。
- (3) 本種は株元に生息しているので、**薬剤は株元まで十分かかるよう**、丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。また、周辺環境に十分配慮し、ミツバチを含む周辺動植物へ影響がないように注意する。

## 図2 トビイロウンカの発生予想パターン 第8版

(平成26年9月22日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- (1) 7月14日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(9月21日までは今年のデータ、9月22日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- (2) 最新の気温で再計算した結果、発生予想パターン第7版(9月18日作成)と比較して、**今回の第8版は幼虫ふ化日が2日の遅れとなった。**

### 参考: ウンカ類幼虫の見分け方について


|         | 若齢幼虫の体色 | 中～老齢幼虫の体色                   | 水面での後脚の出し方   |
|---------|---------|-----------------------------|--|
| セジロウンカ  | 白っぽい    | 灰白の斑紋                       |  : 真横   |
| トビイロウンカ | 白っぽい    | 薄茶か茶褐色                      |  : 真横～やや斜め後ろ   |
| ヒメトビウンカ | 黄褐色     | 淡黄色か薄茶か茶褐色<br>(体側の色が濃い場合あり) |  : 斜め後ろ   |



写真1 トビイロウンカによる株の黄化症状  
(平成26年9月21日撮影)



写真2 株が黄化した株元の状況  
(平成26年9月21日撮影)